

留学報告書

工学部システム創生学科 PSI コース

学部 4 年 川副友貴

派遣先大学：アデレード大学(オーストラリア)

期間：2015 年 7 月～2016 年 7 月

1. 留学準備期間

1.1 留学理由

システム創生学科に進学後の学部 3 年生の時、工学系研究科准教授の森村先生が行っている M-Skype(Skype を通じて米マサチューセッツ工科大学(MIT)の学生と言語交換を行う授業)を履修した。その後 MIT の学生と交流を続け、MIT 訪問や、東京での MIT 生と東大生によるサマープログラム MUSCAT のスタッフを務めた。これらの活動を通じ、日本人以外の国籍の人と接することの面白さにのめり込んでいった。一方でこれまで交流してきた MIT の学生は日本に興味のある学生であり、今度は日本というバックグラウンドなしで自分がどれだけ世界で通用するかを試したいと思うようになり、留学を決意した。

1.2 派遣大学選択

英語圏であること、アデレード大学へ留学経験のある知人から薦められたこと、また世界各国から学生が集まっていることなどからアデレード大学を派遣大学として選んだ。また、私は二次募集で応募したため、一次募集で応募した場合よりも選択肢が少なかった。

1.3 留学準備

留学準備としては主に、TOEFL 受験、大学内での選考、VISA 取得などの事務手続きがあった。TOEFL 受験に関しては、学内選考に用いられるもの、派遣大学から要求されるものともにそれほど高い点数ではなかったが、受験料が高いことや私の場合締め切りまでの受験可能期間が短かったことからある程度

力をいれて勉強した。学内選考については面接が二回あったがどちらも選考しているという感じではなく、なぜ留学したいのかなど基本的な質問に答えるだけだった。事務手続きに関しては、VISA の取得や住まいの契約などすべて英語で行わなければならないと多少面倒だった。

2. 留学期間

2.1 生活

アデレードの街は小さいが必要なものはすべて簡単に手に入り生活面で不自由は特になかった。大学付属の寮に入っていたので大学から徒歩圏内にあり、セキュリティ等もしっかりしており、部屋も綺麗で不満はほぼなかったが、食事が出ないことや寮費が高くつくことがマイナス点としてあげられる。

2.2 大学生活

ほぼ毎日が大学を中心とする生活であった。昼は授業を受け、放課後は大学に残って友人たちと話をしたりご飯を食べに行ったり、飲みに行ったりしていた。大学や街で行われるイベントに積極的に参加したり映画を見に行ったり、サッカーをしたりもした。また休暇中は現地で出会った友人たちとオーストラリア東海岸を飛行機や車で旅行した。授業については、交換留学生は好きな授業を受講できたので、興味のあるものを取っていた。Lecture の録音を Web 上で見るのができたので、授業中聞き取れなくても後から復習することができた。留学生が多く、皆新しい友達を作ろうとしているので彼らと友達になることはそれほど難しくなかった。しかし、初めの 2~3 ヶ月は言語や文化の問題で苦勞する日々が続いたが、思い切って彼らの中に入って一緒に旅行に行ったことで一気に距離が縮まり、自分にも自信がもてるようになったと思う。また、地元のオーストラリア人と接する機会はあまりなく、なかなか友達は増えなかった。

3 就職活動

留学終了が 2016 年 7 月だったが、2015 年の選考開始が 8 月からに後倒しになっていたため留学に踏み切った。しかし、留学開始後の 10 月に、2016 年

の選考開始が6月に前倒しになることが発表された。そのため、留学中に一時帰国して選考を受けなければならなかった。

3 留学を通じて

留学を通じて得たものを一言で言えば、友人である。大学中心の生活で自由時間も比較的多かったため、友人と一緒に過ごす時間が大半をしめていた。その友人たちから得たものは2つある。1つは、世界中どんな人とでも自分らしく生きていけるという自信である。現地にはオーストラリア人はもちろん、アメリカ人、イギリス人、ノルウェー人、中国人など世界各国から学生が集まっており、それぞれが異なるバックグラウンドを持っていた。そんな彼らに対しても日々のコミュニケーションを重ね、一緒に生活するうちに自分らしさをどんどん出せるようになっていく自分を感じることができた。これは英語という言語だけの問題ではなかった。2つめはこれまで興味のなかった新しい分野のことに興味を持ち、学べたことである。例えば、現地では圧倒的にキリスト教徒が多かったが、彼らと話をしたり、教会へ行ってみることで自分の知らなかった世界を垣間見ることができた。また、アメリカ大統領選やイギリスのEU離脱問題など実際に世界で起こっている出来事をその当事国出身の友人たちを交えながら議論できたことはとても良い経験になった。

留学当初なかなか友人達の輪に入れず苦労し、他の人が体験記に書いているような楽しい留學生活を自分も送れるのか不安になったこともあったが、振り返ってみると、とても良い経験になったと思う。

